

<コラム③>那賀川、長安ロダムの特徴

那賀川の河状係数^{*}は1,000と全国の一級河川の中でもトップクラスであり、洪水、渇水が発生しやすい川ですが、那賀川流域内での洪水や利水を調節できる施設は長安ロダムだけです。また、隣接する吉野川流域で最大の早明浦ダムと比べてみると、流域面積は同程度ですが、洪水調節容量は約1/9しかありません。

さらに、通常のダムは、常に洪水を貯められる容量を構えています。長安ロダムでは予備放流方式が採用されています。予備放流方式とは、普段は利水など他の目的で水を使うために水を貯めておき、洪水が発生する直前に水位を下げて、洪水を貯めるための容量を確保する方式です。

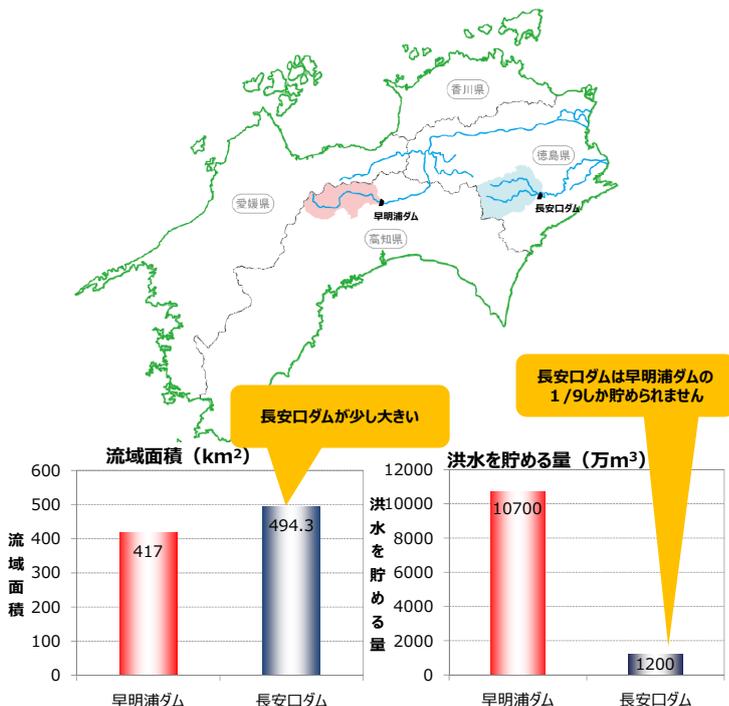
なお、長安ロダムは、全国で唯一、利水容量に洪水調節容量の全てが含まれるダムです。事前に水位を下げて洪水が来なかった場合は、渇水につながるおそれもあることから、降雨や流入量の予測を踏まえた非常にきめ細やかなダム操作を行っています。

◆主要河川の河状係数比較

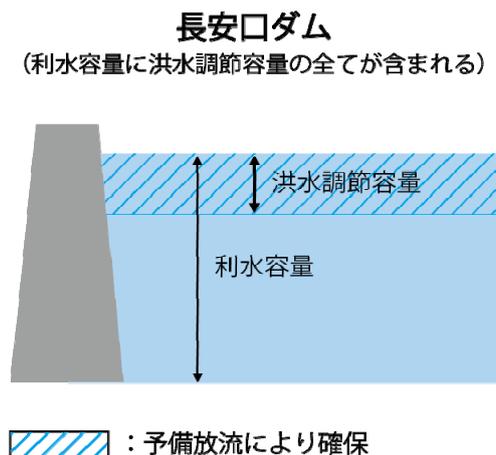
河川名	地点名	河状係数(最大流量/最小流量)
吉野川	岩津	305
那賀川	古庄	1,000
仁淀川	伊野	408
四万十川	具同	295
石狩川	石狩大橋	35
北上川	狐禅寺	39
利根川	八斗島	75
信濃川	小千谷	43
木曾川	犬山	123
天竜川	鹿島	88
筑後川	瀬ノ下	120

※「河状係数」とは…年間を通じた最大流量と最小流量の比較(最大/最小)で、これが大きい河川は洪水とともに渇水も発生しやすい河川といえます。
 ※流量年表より作成(平成5年~平成14年平均)
 ※最大流量・最小流量は10カ年の平均値です。

◆早明浦ダムと長安ロダムの比較



◆洪水調節容量の特徴



※現行計画による